

2023年3月期第3四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2023年1月30日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

1. 事業概要
2. 2023年3月期第3四半期 連結決算概要
3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



その他

▶ 環境計測

▶ センシング
& デバイス



(セグメント別売上比率)

2022年3月期 実績（連結）：1,054億円

通信計測 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

2023年3月期1Q-3Q 実績（連結）：817億円

通信計測 67%			PQA 22%	その他 11%
モバイル 53%	ネットワーク・インフラ 27%	エレクトロニクス 20%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2022年3月期 実績

日本 17%	アジア他 45%	米州 24%	EMEA 14%
--------	----------	--------	----------

2023年3月期1Q-3Q 実績

日本 13%	アジア他 45%	米州 25%	EMEA 17%
--------	----------	--------	----------

PQA : Products Quality Assurance

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比受注は1%増、売上は8%の増収。営業利益は27%の減益、当期利益は24%の減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	832	840	8	1%
売上高	759	817	58	8%
営業利益	109	80	△ 29	△ 27%
税引前利益	111	88	△ 23	△ 21%
当期利益	82	63	△ 19	△ 24%
当期包括利益	94	90	△ 4	△ 5%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測が前年同期比増収だが、営業利益で24%の減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	535	548	13	2%
	営業利益	103	78	△ 25	△ 24%
PQA	売上高	161	180	19	12%
	営業利益	9	8	△ 1	△ 18%
その他	売上高	62	88	26	42%
	営業利益	4	2	△ 2	△ 55%
調整額	営業利益	△ 7	△ 8	△ 1	-
合計	売上高	759	817	58	8%
	営業利益	109	80	△ 29	△ 27%

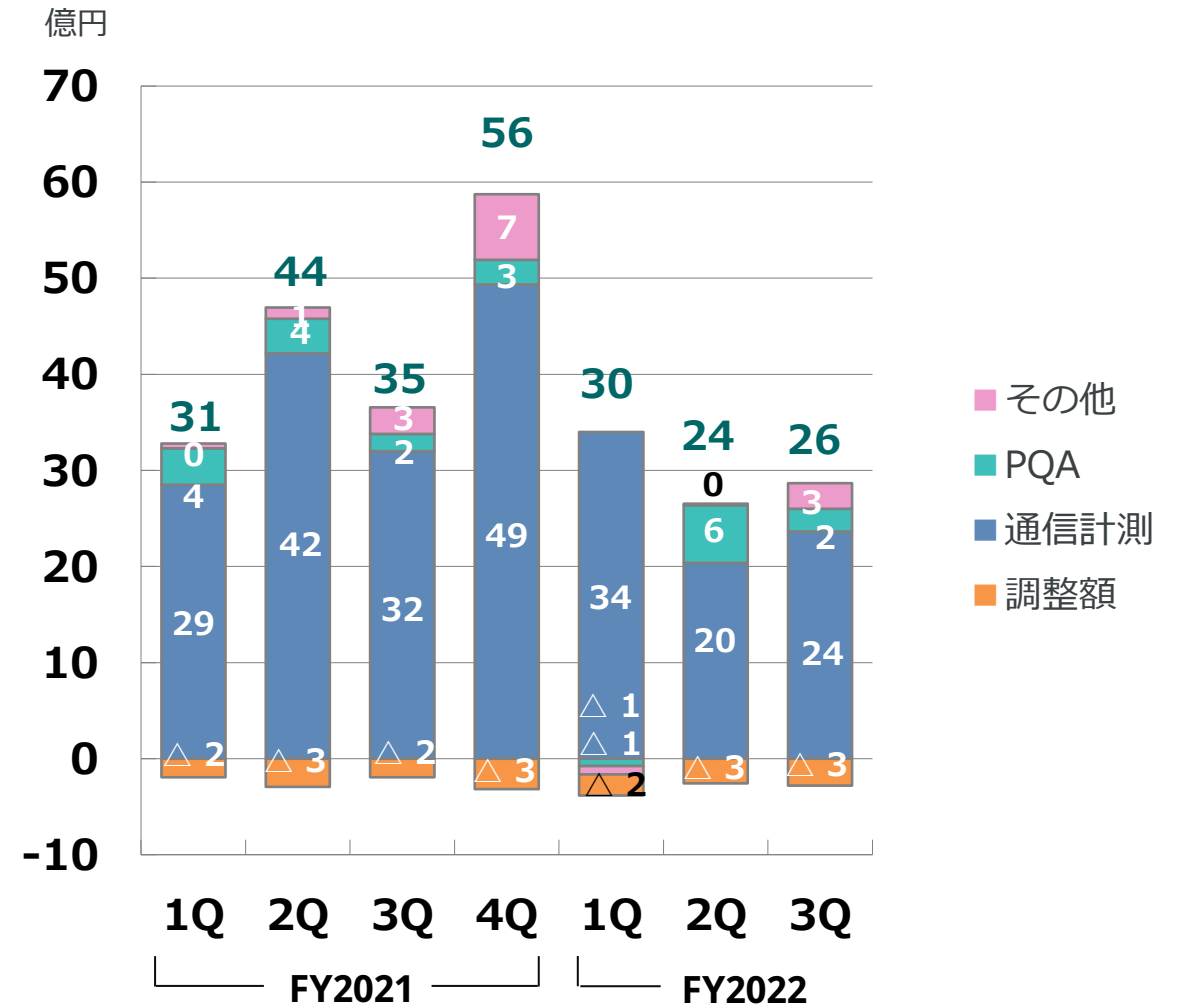
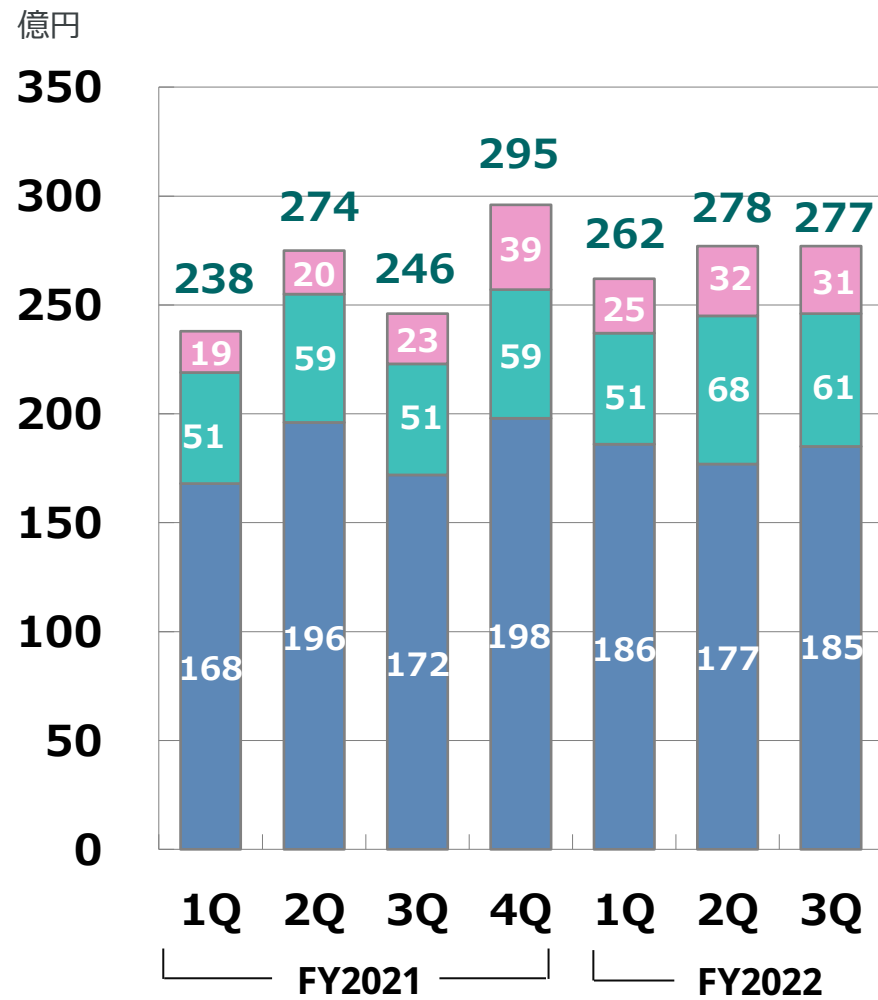
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA : Products Quality Assurance

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

3Q(10-12月)営業利益率：連結 9%，通信計測 13%，PQA 4%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2023年3月期（4-12月）の状況

➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で、顧客は設備投資に慎重姿勢
固定ネットワークの高速化需要は堅調
部品不足については改善傾向

モバイル

経済状況の不透明さに起因する顧客の投資判断の遅れなどにより、モバイル市場の成長が一時的に鈍化

ネットワーク
インフラ

米欧中心に固定ネットワークの高速化への投資は順調に推移

アジア他・日本

5Gサービスへの投資増には慎重な見方

アメリカ

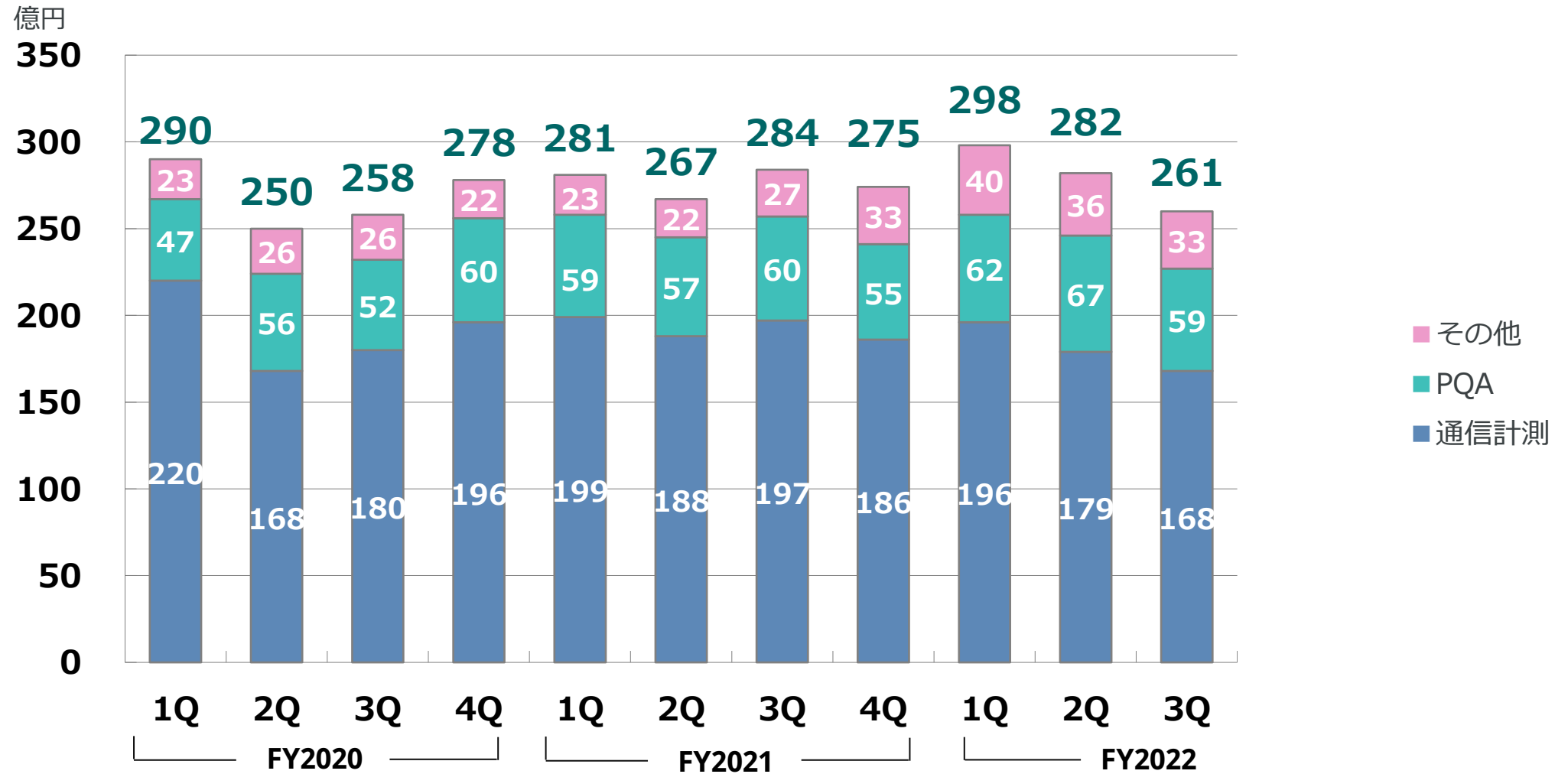
固定ネットワーク高速化への投資は順調
5G基地局敷設は進展も、建設保守用測定器への投資はこれから

➡ PQA：アメリカでの需要が堅調、アジア・日本も回復傾向

2-5. 受注高推移

▶ 通信計測：前年同期比15%減

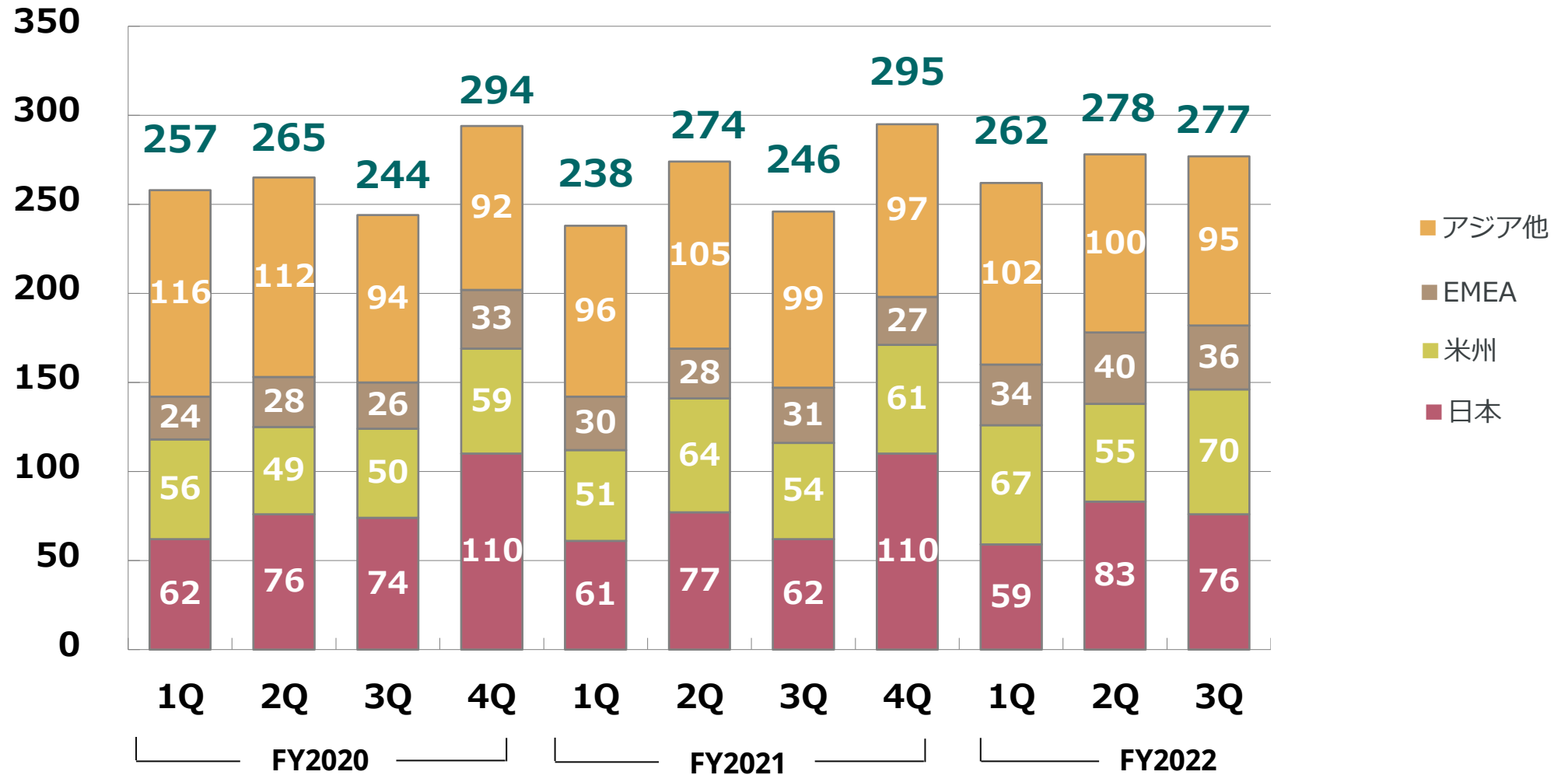
▶ PQA：前年同期比同水準



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移

億円



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 5.8%

FY2022 (4-12月)

① 営業CF : 47億円

② 投資CF : △41億円

③ 財務CF : △112億円

フリーキャッシュフロー

(① + ②) : 7億円

現金同等物期末残高

367億円

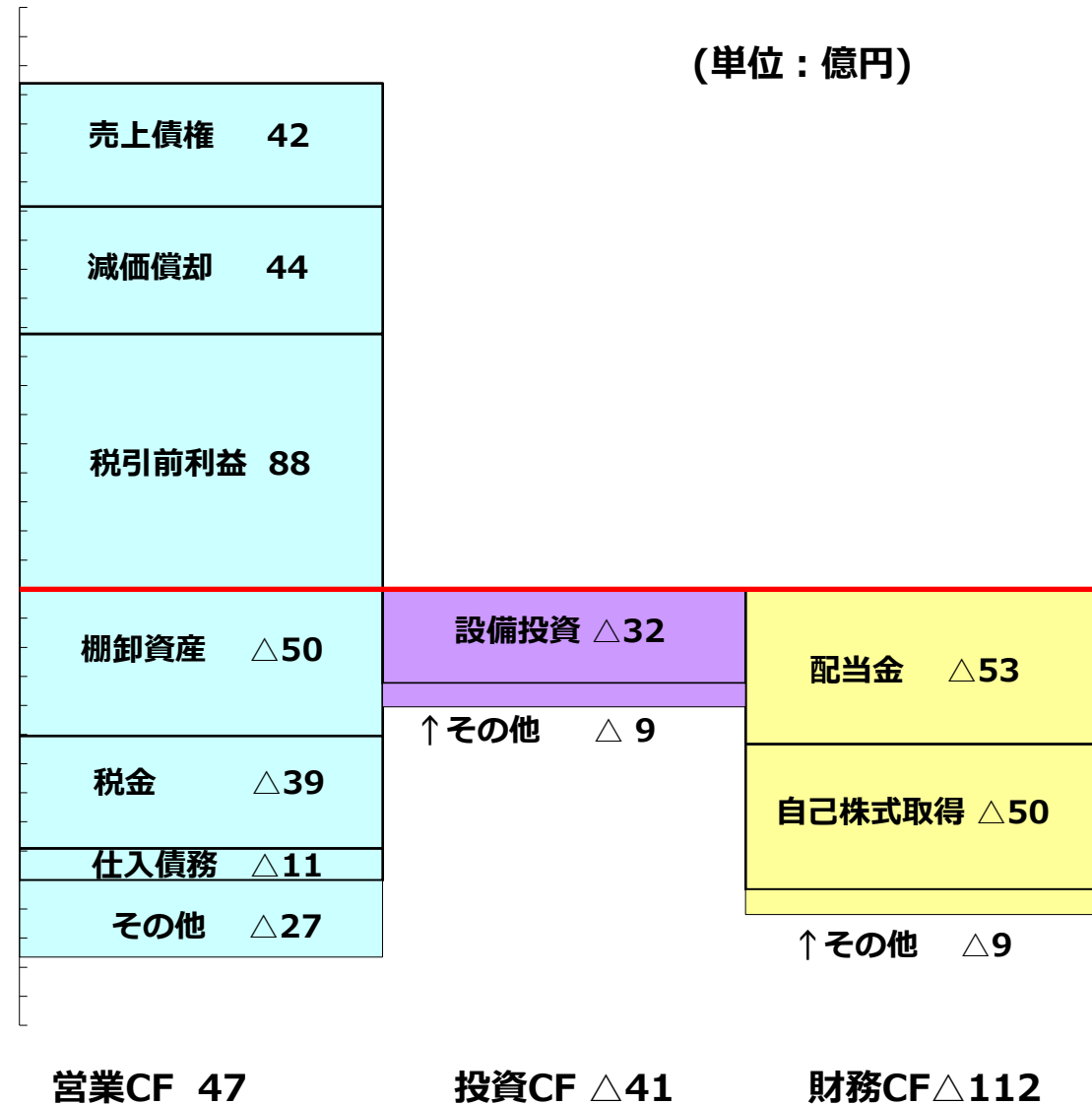
有利子負債高

67億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位 : 億円)



3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）

2022年10月28日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正

配当は、期初計画とおり1株当たり年間40円を予定（期末配当：20円）

（単位：億円）

		2022/3期				
		前期実績	通期予想		前期比	
			前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率(%)
売上高		1,054	1,150	1,100	46	4%
営業利益		165	175	135	△ 30	△ 18%
税引前利益		172	190	145	△ 27	△ 15%
当期利益		128	140	110	△ 18	△ 14%
通信計測	売上高	733	780	730	△ 3	△ 0%
	営業利益	152	160	120	△ 32	△ 21%
PQA	売上高	220	240	240	20	9%
	営業利益	12	13	13	1	11%
その他	売上高	101	130	130	29	29%
	営業利益	11	12	12	1	7%
調整額	営業利益	△ 10	△ 10	△ 10	0	0%

（参考）FY21 為替レート

：1米ドル112円、1ユーロ131円

FY22 1Q-3Q実績為替レート

：1米ドル137円、1ユーロ141円

FY22 4Q想定為替レート

：1米ドル125円、1ユーロ135円

（注） 2022年1月4日に統合完了した高砂製作所の業績は、その他事業に含まれています。

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

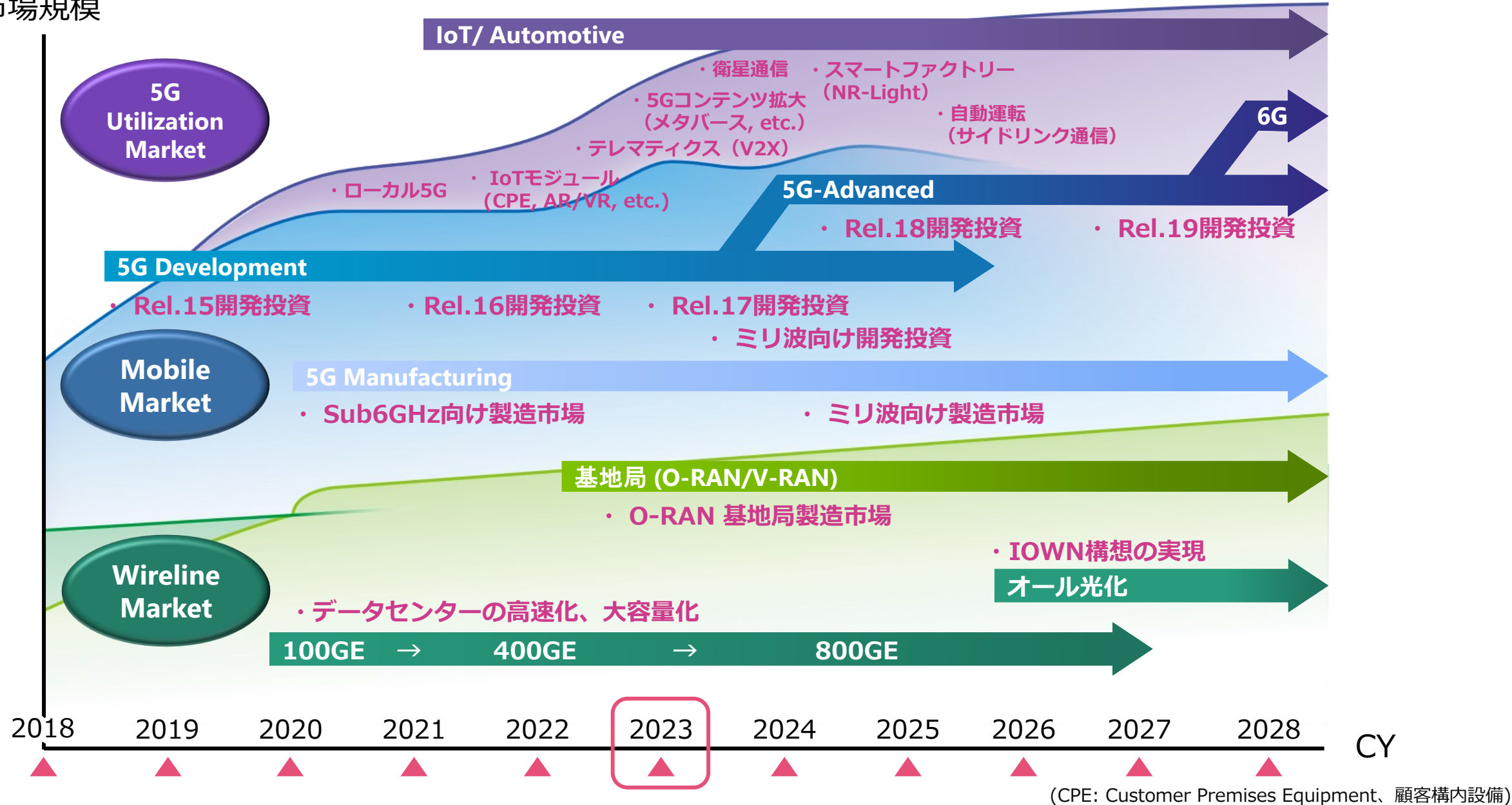
4. 当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

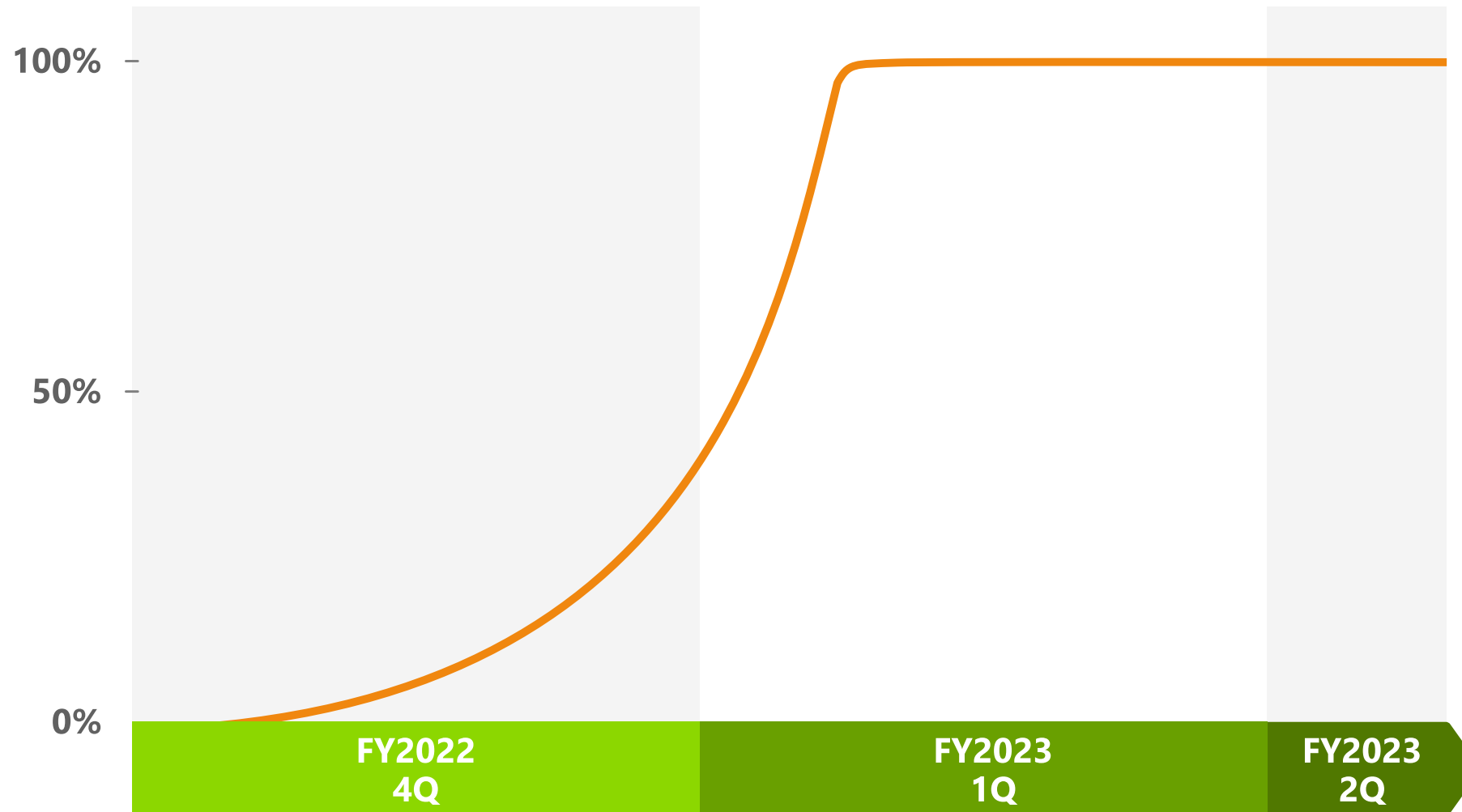
市場規模



4-2. 通信計測事業における価格転嫁

価格転嫁効果はFY2023 2Qから100%反映

通信計測事業における価格転嫁の割合



グラフはイメージ

4-3. 世界の5G/利活用/6Gの動向



US

5G Verizonのエリア拡張に伴う加入者増に期待

利活用 GAFAなどがゲームやメタバース向けにAR/VRヘッドセットを市場に投入の動き

6G 日米政府は、共同声明で6G研究開発に45億ドルを投資することを発表
(米国25億ドル、日本20億ドル)



欧州

5G 各国のサービス開始に伴う加入者増に期待

利活用 ドイツでは、産業用Local 5Gの導入をNokiaが牽引

6G 3GPPによる6G仕様は、2028年ごろのRelease 21から対応予定
・EU投資額：9億ユーロ（21-27年）
・ドイツ政府投資額：7億ユーロ（21-25年）



アジア/その他

5G ローエンド向けチップセット開発企業の増加
インドのオフショア開発拡大

利活用 Private 5G/FWA向けIoT無線モジュールの開発製造投資が堅調

6G 中国は、2021年3月に公表された計画にて5G-Advancedや6G等研究開発へのサポート強化表明
韓国政府投資額：2,200億ウォン（21～25年）



日本

5G 4G周波数帯も使用したエリア拡張推進中

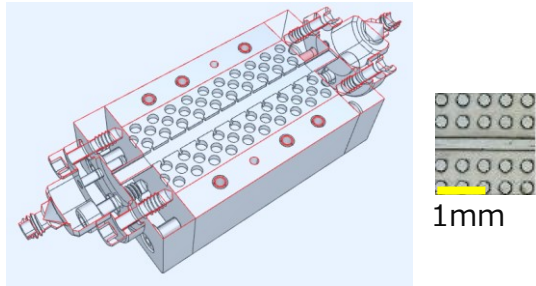
利活用 2024年5G搭載車リリースに向けた研究開発の加速

6G 大阪万博での6G技術の公開に向けた動き
政府主導の6G研究開発促進事業による高周波デバイス研究の加速
日本政府投資額662億円（23年度）

出所：一般公開情報を参考に当社作成（2023年1月時点）

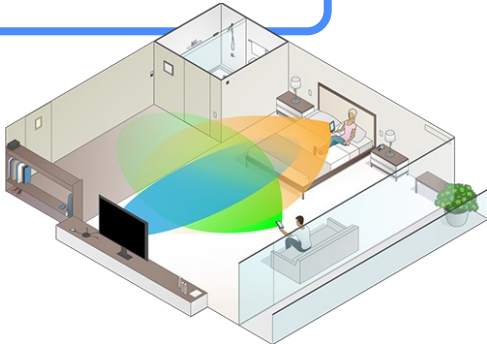
4-4. 6Gに向けてのアンリツの取組み

- 100GHz超のミリ波設計技術
- ~300GHz帯の受動素子の研究



ギャップ導波路

Full Duplex通信時の電波干渉の測定技術



5Gの10倍の
通信速度

5Gの1/10の
低遅延

消費電力を
現在の1/100

拡張性

自律性

6G
アンリツ
の取組み

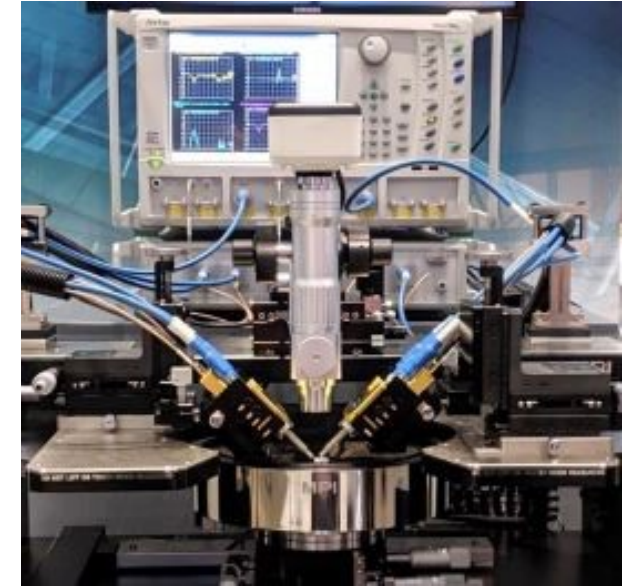


Beyond 5G/6G

材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価

ME7838シリーズ

ベクトルネットワークアナライザ



■ 特徴

ミリ波拡張モジュール追加により、6Gに求められる330GHz帯の高周波試験に対応

■ 対象顧客

高周波デバイスの研究機関および大学、デバイスメーカー、素材メーカー、通信機器メーカー

